

日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリストの新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕

〒 165-0027 東京都中野区野方 1-55-1 天門教会内 日本クリスチャン・アシュラム連盟 振替口座 東京 00100-1-4558



充滿の時、横山義孝師は靈的に三つのポイントでまとめてくださり、恵みを分かち合いました。(1) 私たち一人ひとりには「開心の時」に於いて魂の深みからの「ニード」を吐露し、御前に恵みを分かち合いました。主はこれを受け入れてくださいました。(2) 「祈りの細胞」「静聴の時」の時を経て「福音の時」では千代崎備道師よりみ言葉を頂きました。『わたしは知っている。私を贖う方は生きておられる』(ヨブ記 19:25)と、まさに主イエス・キリストは私の罪の汚れの一切を贖い救うお方として、このお方を改めて信じ、委ね、このお方にすべてを明け渡しました。(3) その目的は何でしょうか。明け渡した私の魂に「愛の主ご自身が宿りになるため」です。「信仰によって心の内にキリストを住まわせるため」でした。『イエスは主である』アメン。

関西支部報告

関西支部 脇田真一

一、昨年度(二〇二〇年)の活動
 新型コロナウイルスの流行のため中止した。
 二、今年度(二〇二二年)の活動
 関西支部の第54回アシュラム研修会は次のような計画のもとに準備をしている。
 開催日 二〇二二年九月十九日(日)(休日)から九月二十日(月)(祝日 敬老の日)
 助言者 榎本 恵 師
 場 所 母の家 ベテル
 三、その他活動状況

関西支部では、小島十二師が支部長をなさっていた期間には小島師の体調の具合からあまり遠くへは行けないので、同師のご自宅で委員会や研修会のための祈禱会をよく開いていた。
 小島師が二〇一八年九月二三日に召天され、その後任として、清水潔師が支部長に就任されてから、支部長の居られる教会を訪問しようと言うことで、京都復興教会で委員会が開かれた。支部委員の居られる教会を順次訪問して、委員会等を開くのは委員の状況がよくわかり、相互の理解が深まり、アシュラム活動や宣教活動にも良い結果をもたらすのではなからうかと思う。

九州支部報告

九州支部 岡山敦彦

九州アシュラム 九月一九日(二十一日)
 福岡県糸島市のクリスチャンの別荘

からし種

一粒ほどの信仰

マタイ17章20節 (ルカ17章6節)



牧之原ビジョン教会引退牧師

横山 勲

もし、からし種ほどの信仰があったらこの山に『ここからあそこに移れ』と言えば移るのです。どんなことでも、あなたがたにできないことはありません。(マタイ17章20節) (ルカ17章6節)

もつと信仰があったらと願うのは私たちクリスチャンの共通の思いであります。イエス様は、もつとからし種ほどの信仰があったら山を移す程の信仰の実を結ぶのだと言われました。イスラエルでは小さい物の譬えはからし種のようにだと言われます。また、大きな物のほうは山のようにだと言います。小さくて目にも止まらないような信仰でも、続けているうちに、やがて大きく育ち溢れ出る程の信仰となり、山を移すほどの信仰となるのだと考えてきました。全くの聖書読みの聖書知らずの私ですが、主は、ここで信仰の本質について語っておられるのです。信仰の本質は、量的に大きいか小さいかではなく、質的にどれだけ純粋で生きた命のある信仰であるかと言うことであります。見かけは小さく目に留まるに難いようなからし種であっても、それが命ある生きた種です。

以上立派な生命体で、一定の条件を満たせば、やがて芽が出て成長し空の鳥がやどるような大木へと育つのです。

からし種一粒ほどの信仰とは生きて働く信仰を表しているのです。言い換えるなら、「本気で信じる信仰である」と言えるでしょう。

マルコ11章22節(23節)で主は「心の中で疑わず、ただ自分が言った通りになると信じるなら、その通りになります。」と言われています。

少年ダビデのゴリアテに対する勝利、長血を癒された婦人の信仰(ルカ8章48節)にその例が見られます。

主のみ言葉を本気で信じるなら、山積する難題や根深い深刻な信仰上の試練や困難・・・人間の力ではどうすることもできない不可能な事態は可能となるのであります。

難問中の難問コロナウイルスに立ち向かうアシュラム同志の皆さん、からし種一粒ほどの信仰を持つて戦って参りましょう。

献金のお願

アシュラム誌203号紙面に振り込み用紙を添付させていただきました。

読者の皆さまのお祈りと暖かいご支援のお献げもの宜しくお願ひ申し上げます。

振替口座
 東京 00100-1-4558

編集後記

過ぎ去った一年、コロナの影響が教会生活、家庭生活、職場生活等すべての領域に影響を及ぼしてきました。アシュラムも例外ではありません。コロナの影響は地域差や個人差がありました。また、失ったこともあれば、工夫して思いがけない利点もありました。

今年の後半には、コロナも収束し、各地からアシュラム集会の恵みの声が届けられることを期待し、祈っています。

アシュラム誌は、読み易いようにと今回からB5からA4に変更しました。(岡山敦彦)



霊 想

「心を潤す泉がある」

出エジプト記15章22節〜27節



日本バプテスト連盟

早良キリスト教会牧師

加山 献

「モーセはイスラエルを、葦の海から旅立たせた。彼らはシユルの荒れ野に向かつて、荒れ野を三日の間進んだが、水を得なかった。マラに着いたが、その水は苦くて飲むことができなかった。こういふわけで、その名はマラ（苦い）と呼ばれた。民はモーセに向かつて、『何を飲んだらよいのか』と不平を言った。」（22節〜24節）

イスラエルの民は砂漠の道を三日間進み続けました。蓄えていた飲み水も底を尽きてしまったこととでしょう。子ども達も高齢の方も一緒に旅している状況で、丸三日間、砂漠の真ん中で飲み水を得ることができなかった彼らは、命の危機に瀕していました。

彼らはやっつこの思いで、水がある場所にたどり着きました。しかし彼らの喜びはすぐに落胆に変わりました。「その水は苦くて飲むことができなかった」というのです。ついに人々はモーセに不満をぶつけました。不満をぶつけられたモーセは神さまに叫びました。

「モーセが主に向かつて叫ぶと、主は彼に一本の

木を示された。」（25節）主は、彼に一本の木を、示された・・・その一本の木を水の中に投げ込むと、神さまの特別な力により、苦い水は甘くなり、飲めるようになった、というのです。

私たちの人生にも度々苦い体験があります。度々、マラの水場のような苦い場面を通ることがあるのです。探し求めていたはずのものが苦くて飲めない、そのように期待を裏切られるような落胆があったりもするでしょう。

ですが神さまは、私たちの人生にも、一本の木を示してくださいました。それはカルバリの丘の十字架です。十字架とはすなわち福音です。主イエスが私たちのために歩んでくださったすべての道のり、私たちのためにお語りくださいます。すべてのお言葉です。

その苦い経験は、甘く慕わしい、甘美に満ちた水に変えられる、というのです。神がお与えになる恵みは、私たちの失敗、後悔、痛み、悩みを覆ってあまりある、大きな恵みなのです。

やがてイスラエルの民は、エリムの泉と呼ばれる場所に導かれました。そこには12の泉と70本のナツメヤシが茂る、完全なオアシスでした。マラからわずか8キロほど先に民の命を支えるオアシスが備えられていたのです。ここで民は、旅の疲れを癒し、ゆつくり休み、喉の渇きを癒しました。

私たちの人生にもこのようなオアシスが必要で、しばしの休息をとり、次の旅に向かうための力を蓄える、憩いの場所です。願わくは、この教会の礼拝が、皆さんにとってそのような憩いの場所となることを願います。私たちも勇気を得て、人生の旅を続けていきましょう。時にはマラの苦い水があります。しかし、マラのすぐ先にはエリムの泉が備えられているのです。



証 し

アシュラムの恵み



日本キリスト教団

東大阪教会

脇田 智重子



第52回城北アシュラム報告

日本基督教団 天門教会牧師

貴村かたる

アシュラム集会（母の家ホテル）に参加して、助言者や牧師のメッセージ、信徒の証を聞かせて戴き、自分の罪、無知、信仰の弱さに気づかせて戴きました。更に、み言葉の奥深さと、み言葉に聴き従う信仰生活の大切なことを学ばせて戴きました。即ち、①私達は聖書を毎日真剣に読み、聖書のみ言葉を通して神は私達に永遠の命の道を示して下さい。②絶えず祈り、主の名を呼び続けていると、私達の願いを遥かに超えた神の御心に適う素晴らしい結果を与えて下さる。③自分に示されたみ言葉に実際に聴き従って、素直に実行すると、自分の夢想だにできなかった聖なる豊かな実が結び、神は生きておられると言わずにはおられない。④いつの間にか与えられた使命感を感じて、実践し、奉仕していると、心に喜びと感謝があふれる。⑤人生の目的、希望、夢、ヴィジョン、勇気や元気が与えられ、感謝と喜びに満たされる。

アシュラム集会はこのように素晴らしい結果の与えられる集いであるのに、若者の参加が少ないのが残念でならない。パウロが回心

し、イエス様から与えられた救いに感謝して、命がけで地の果てまで宣教した働きを見る時、私達大人が青年達への伝道に真剣に取り組み、創意、工夫をし、神に真剣に祈り、まず、すぐに実行できることから実施して行きたいと願います。

今、新型コロナウイルス・ウイルスが世界中に蔓延し、一億二千万人も人が罹病し、何十万人の人が死亡し、悩み苦しんでいます。この感染症が早く終息しますように熱心に祈り続けたいと思います。最後の勝利は主イエス様が持っています。如何なる状況においても、イエス様は光であり、勝利であります。イエス様は「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ」（ヨハネ福音書8章12節）と言われました。このみ言葉をしっかりと携えて歩んで行きたいと思えます。アシュラム集会に集う者として、み言葉に聴き従う真のキリスト者でありますように祈り、願います。



城北アシュラム（池の上教会・新宿西教会・更生教会・天門教会以上の四教会で構成する集会）を毎年持ち回りで開催しています。今年（二月十一日）池の上キリスト教会主催で開催いたしました。荒井光夫兄が進行係の重責を担って下さいました。正午に開会し、午後五時前に解散する半日アシュラムといたしました。

コロナ緊急事態宣言下のもと、コロナに対する意識が高く、数回にわたり時間をかけた話し合いをしました。感染防止の観点から、三密を避けるため、池の上キリスト教会、新宿西教会、更生教会の三会場にそれぞれ分散し、三回にわたる予行演習で安全を確認し、実施しました。更に万全を尽くすため専門技術者として山崎製パンの社員の方たちを各会場に数名ずつ配置し、ご支援ご協力をいただきました。各会場にそれぞれにマイクとカメラを複数台設置し、開心の時、静聴の時、福音の時、そして充滿の時は、三会場をZoomによる双方向ライブ配信システムで繋ぎ、三会場それぞれの発言や発表を参加者全員で共有し、お互いに分かち合えるようにいたしました。なお、祈りの細胞につきましては、教会ごとに小グループに分かれ「ニード」を各自発表して祈り合いました。